



ゆりほんじょう市

農業委員会 だより

第5号

平成20年1月 発行

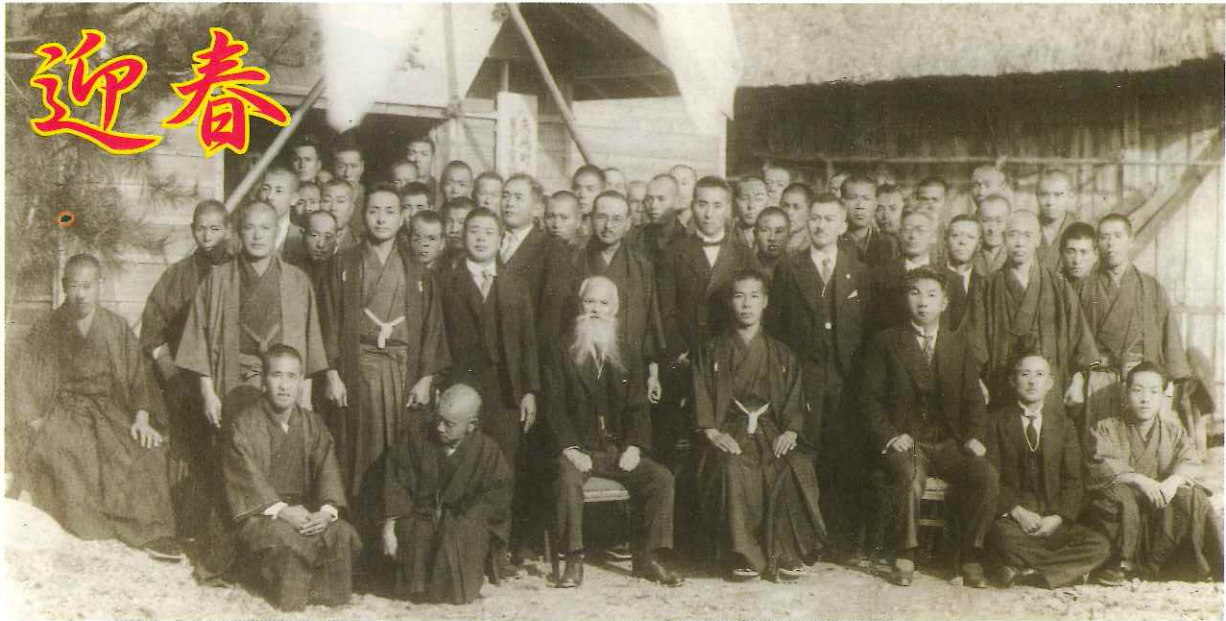
発行由利本荘市農業委員会

〒015-8501

秋田県由利本荘市尾崎17

TEL 0184-24-6258

FAX 0184-24-6396



あいさつ

会長 佐々木 久造

新年おめでとうございます。昨年は平年作にもかかわらず米価が急落しどうなることかと心配しましたが、国の在庫増が決定しどうにか下げ止まりの様子になりました。

しかしこれは昨年産米だけで、二十年産米については国の買上げはできず過剰作付分は余り価格は低下することです。

このような状態では集落営農もどうなるのか先ゆきが危ぶまれます。また耕作放棄地が増えることも考えられます。

私達農業委員会系統組織では、過剰作付をしない農家だけを政策支援の対象とするよう強力に働きかけております。また品目横断的経営安定対策についても色々不合理なところが出てきております。これについても要件緩和等要望しており国でも見直しに着手しております。

国では農地をこれ以上減らしたくないようですが、所得が生産費を下まわるような現状では農家の生活は成りたちません。専業農家ほど深刻です。食料だけは市場原理で価格決定せず一定の価格支持が必要であると思います。中山間地への直接支払制度も同様です。

農業委員会も合併後二年目をむかえました。体制も徐々に整いつつあり、委員も地域の代表としてがんばっております。今後とも気軽に相談して下さい。農家が安心して経営に専念できるよう努力していきたいと思っております。

今後とも、農家の皆様を始め、関係機関、団体の御協力をお願い申し上げ新年の挨拶いたします。

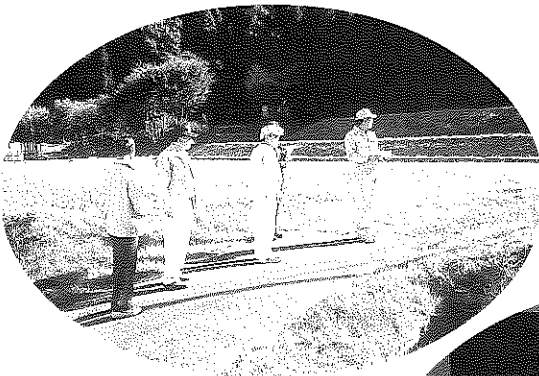


作況調査

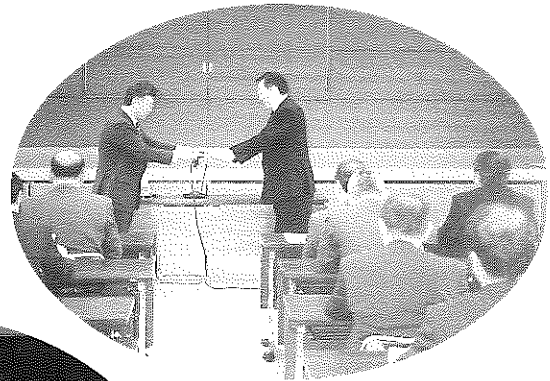


市長との農政懇談会

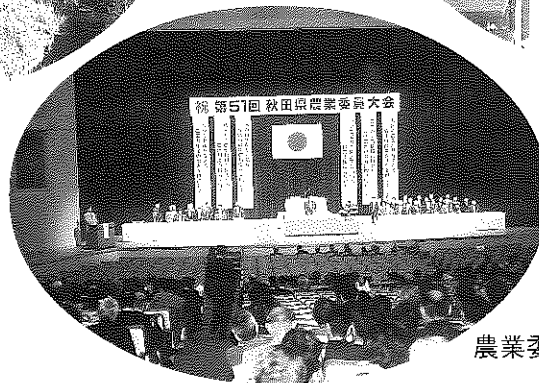
今年の主な活動



農地パトロール



市長への建議



農業委員大会

“本年もどうぞよろしく申し上げます”

農業委員一同

37 36 35 34 33 32 31 30 29 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

- 佐々木 今野 佐藤 真坂 会長(本荘) 久正 樹造 (議席番号順) 欠員2名
- 鈴木 金子 佐藤 庄司 木村 岡田 大場 井島 田口 相庭 佐木 角谷 伊藤 伊豆 佐藤 金子 渡辺 真木 茂木 佐藤 加藤 熊谷 高橋 東林 佐藤 佐藤 鈴木 正木 佐藤 小松 二部
- 政和 耕弥 作安 隆長 弘秀 紘拓 幹平 美寶 俊和 一男 正博 賢彦 正悦 多實 甚修 系一 忠彦 幸夫
- (本荘) (鳥海) (由利) (西目) (鳥海) (本荘) (本荘) (大島) (西目) (本荘) (鳥海) (鳥海) (東由利) (東由利) (大内) (大島) (由利) (西目) (鳥海) (大内) (大内) (大島) (本荘) (大島) (本荘) (岩城)

堀切集落営農組合

真坂平通

堀切集落は、市北部の山間に位置し旧雄和町と隣接する戸数35、内農家戸数27、耕地面積60ヘクタールの純農村である。水田の大部分は未整理の傾斜地であり、小関川の上流端のためしばしば水不足に悩まされている。農家形態は、農外収入を主とした兼業農家が大半で、農業従事者の高齢化、後継者不足も顕著である。

集落の将来を見据えて、農作業の共同化や経費の低コスト化、さらには集落機能の維持等々を何度となく話し合った結果、18戸の農家が構成員となり営農組合設立となった。

営農組合設立から一年経過した今、経理事務量の多さと難しさには閉口している。そして何よりも米価の

大幅な下落による営農組合の経営難イコール農家の経営難は、多くの農村農業問題をこの集落営農で活路を見いだそうとしただけに、前途に大きな暗雲が立ちだかっていると感じた。

農村、農業、農村を守り集落営農組合を維持発展させるためにも、行政及び農協のさらなるお力添えを熱望する。



表紙の写真説明

相庭安一

矢島町「新所農友会」創立七十年記念、及び「新所集落営農組合」設立記念式典に出席した。

地区の会館には、農友会創立当初からの周年記念写真を飾っている。表紙の写真は昭和十年に創立した「新所農会」(当時)の記念写真である。会の目的、活動内容を見ると現在の「集落営農組合」のそれと大きな違いはない。二十一世紀に向けた「新・農業改革」が七十年前と同じだとすれば、甚だ

「佐々木建一委員」辞任

七月十八日付で一身上の都合による辞任願いが提出され、八月総会の同意を得て辞任されました。

氏は平成十一年より旧本庄市の農業委員に就任され、合併を挟んで通算八年間にわたり、農業振興並びに農民の地位向上にご尽力されました。ありがとうございました。

農家のみなさんへ ～農業者年金に加入しましょう～

○農業者年金の6つのメリット

- ・積立方式なので、年金額が加入者や受給者の数に影響されない安定した制度です。
- ・国民年金第1号被保険者で、農業に従事する60歳未満の人は誰でも加入できます。
- ・農業経営の状況や老後設計に応じて、自分で保険料を決められます。
- ・農業者年金は生涯支給される終身年金です。
- ・認定農業者や青色申告者など、一定の要件を満たす人には保険料助成措置があります。
- ・保険料は社会保険料控除の対象となり、保険料の15～30%の節税効果があります。

○農業者年金に関するお問い合わせ、申し込みは…

J A 秋田しんせい農協窓口
農業委員会各事務所



心配である。しかし会長の「小野功司」さんは「自分は先輩達が守り歴史を築いてくれたものを、同じように守り、周年行事を行い記念写真を掲げることが出来たことを誇りに思う」と話してくれた。厳しさを増すばかりの農業情勢の中で、さりげなく話す小野会長さんから「温故知新」を学ばせて貰った様な気がする。貴重な記念写真提供にお礼を申し上げるとともに、現在七枚の写真が更に増えることを期待し写真説明と致します。

平成 19 年改訂 由利本荘市標準小作料

本市標準小作料は現在、合併前の各地域標準小作料を適用しておりますが、本年度が改訂期にあたり、次の通り改訂します。

- ・農地区分を由利農業共済組合の収量等級コードに基づき A～E の 5 段階とします。（収量等級 12～26 の合計面積 / 全水田面積 = 96 %）
- ・小作契約は貸し手と借り手の自由契約が原則です。標準小作料はその為の目安となるもので、借り手の農業経営の中から支払いうる水準となります。
- ・この標準小作料は圃場整備された平坦な 30 アール区画の水田を想定しています。圃場条件は土質や傾斜度、形状や日照条件、水利費や防除費等により 1 筆毎に異なります。また、転作収入も作目等により異なりますので、大豆参考小作料等を参考にして、借り手・貸し手双方が十分協議して合意の上、小作料をお決めください。
- ・この標準小作料は米価を、『15,100 円 / 60 kg』として算出しました。これは秋田県米政策推進本部の「稲作構造改革促進事業における米価下落時補てん対策に係る平成 19 年度基準収入」（品目横断的経営安定対策の稲作標準的収入額と同額）の目安単価です。
- ・詳細な資料を農業委員会各事務所に準備しておりますので、お問い合わせ下さい。

○水稲作付け率 73 % ・転作収入無しの場合の小作料計算例（10 アール当たり）

- ・水稲作付け率 73 % 小作料 = 標準小作料 × 73 %（端数切り上げ）
(円)

農地区分	A	B	C	D	E
水稲 73 % 小作料	15,400	11,000	8,100	4,400	800

1. 水稲標準小作料（転作を除く 10 アール当たり小作料）

農地区分	A	B	C	D	E
収穫量 / 10a	600 kg	570 kg	540 kg	510 kg	480 kg
収 量 等 級	12.13.14	15.16.17	18.19.20	21.22.23	24.25.26
収 量 (kg)	610 ~ 590	580 ~ 560	550 ~ 530	520 ~ 500	490 ~ 470
標準小作料 円	21,000	15,000	11,000	6,000	1,000

2. 参考小作料（転作田作付け大豆の小作料 10 アール当たり）

- ・輪作体系や労働生産性、栽培技術、助成金体系等の有利性から参考小作料を大豆とします。

参考小作料	転作大豆	5,000 円 / 10 a
-------	------	----------------

3. 標準小作料の適用時期 平成 20 年産米から適用します。

地域農業の反省

君ヶ野集落 今野 房夫

地域の概況から申し述べます。私は岩城地区で国道七号線から東方、日本海に注ぐ君ヶ野川流域に添うた、県道雄和岩城線の約6キロの地点から又東方に2キロに連なる山あいの君ヶ野地域で炭焼き兼業農家でした。約40年前八郎潟干拓事業工事が終わり入植者の希望者募集がありました。私も将来の専業農家をめざそうと思い入植受験の手続きを取って書類を提出した結果、仙台の農政局から7ヶ月の年齢オーバーで受験できないとの通知が来ました。私の兼業である木炭も石油の輸入のため生産過剰になりつつあったので、兼業農家行方を考え木炭生産を断念して、年齢は43才でしたが、秋田県の誘致工場である川崎市の日立製作所のコンプレッサー協力工場の土佐製作に機械工として入社し、六ヶ月の見習いが終わると同時に秋田工場も建設され、秋田に帰り家から通勤することになりました。

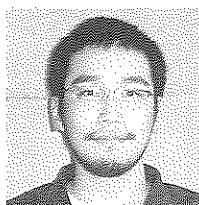
秋田に帰ると同時に君ヶ野地域圃場の基盤整備の話が始めました。私も会社通勤しながら集会には出席していました。出席している内に役をやってくれと言われて役員として務めました。再三の集会が開催さ

れるが、どこも同じだと思いが当分の高齢者が揃って反対が多く困難がありました。会を重ねる事によりお互いに理解を深め、通年施工の工事に着手されました。(田圃の工事中一年は耕作しないで反当たり三万円を個人支給すると言ったことでした。)

工事も着々進み農道のない区域や橋のない地域全部改善され、整備地域内に農道が出来て車や自転車で行くようなことは考えてもいなかった時代でした。工事事も完了しいよいよ個人の配分に入り、毎晩の如く役員が集まりで個人的に一ヶ所にして配分するため、長い時間をかけて不平不満もありましたがすべての作業が終わったときのことは思いついて今も残っています。農地の配分も終わり機械買入が始まり、お互いに耕作面積に合わせて手動型田植機の二条植と四条植が一番早く購入されたことを記憶しています。

時代の変化に伴い農政も著しく変わり更に集落営農組織となり、君ヶ野地域も組織が誕生しています。毎日のように少子高齢化と報道されている現在、これから集落に於いては、担い手対策が一番重要だと思っ

ています。私は八十四才になりましたが、兼業農家の意思を介えて少しでも集落営農組織に複合経営を取り入れるについても色々な考えがあると思います。高齢者には退職後健康に留意し第二の人生を年金生活の中から仕事と趣味を相携えて、少しでも緊張感を抱きお互いに痴呆障害



農業に
チャレンジ

東由利地区で就農して3年目の金子昌弘さんを訪ねました。自宅は東由利老方・吉野地区です。

昌弘さんは高校卒業後、埼玉県の専門学校に進学(造園コース・2年)し、農業とは別の道を志しましたが、授業の中で取り組んだ野菜作りが農業への思いを呼び起こし、卒業後はUターンし、秋田県農業試験場で稲作コースを2年間研修した後、家に帰り就農しました。

就農した平成17年には家族経営協定を結びパソコンによる農業簿記の入力を一手に引き受け、経営を管理しています。

家は、水田21ha畑2haを耕作し水稲、メロン、馬鈴薯の栽培のほか、東由利の特産であるフランス鴨二、五

を防ぐ為にも集落営農の複合経営に参加し、高齢者の第二の人生を楽しく過ごす仕組みが出来れば幸いです。私には山三町歩(杉植林)田圃四反歩余り、減反田にアスパラガス一反七畝歩、ハウス90坪にミニトマトを栽培しJAに出荷しています。

○羽を飼育しています。

4月にはいと休みが無くなってしまうと笑いながら話し、休みがないことを特に苦痛に感じている訳でもないようです。

東由利の農業について聞いてみると、農家の高齢化が一番気になっているようで、毎年行わなければならない、水路管理等の共同作業に出てくる若い人が少ないため、将来施設を維持管理していくことが大変になるのではと、不安を口にしました。

次代に農地を引き継ぐため、若い人が安心して就農できる環境を整備しておかなければという思いを強くしました。

昌弘さんは、毎日父親と一緒に仕事をし、「父に追いつけ、追い越せ」を目標に頑張っています。東由利農業の担い手として、大いに期待し、応援して行きたいと思えます。

「頑張るアグリウーマン」

今回は本荘地区でJAしんせい女性部が運営する本荘直売所「青空市」を紹介します。

折しも積雪のあった十一月二十二日に「青空市」を訪ねました。場所はJA本荘支店に隣接して建設された24坪の直売所であります。オープンには平成十五年九月十七日。会員二十三名でスタートしました。それ以前は鶴舞温泉の駐車場です。それ以前は鶴舞温泉の駐車場でテントを張って五年間程野菜等の直売を行っていたとのことであります。直売所としての活動は古いほうであります。現在会員の



中心は五十代六十代の農家のお母さん達で、年間を通して自分たちで栽培し育て上げた新鮮な野菜や加工品が店内に並びます。開店時間が午前九時、閉店は午後三時で、日曜日が休業日です。会員三名が当番制で販売を担当しているそうです。

当日、会長の工藤哲子さんから色々とお話を伺うことが出来ました。「青空市」に来て下さる消費者は近隣の方々が多く、比較的固定客が多いそうです。このようにいつも来て下さる消費者の方々をこれからも大切に、新鮮で安く安心して農産物をこれからも提供していきたいとの事でした。また、八時半までに会員の皆さんが「青空市」に農産物を陳列するのだそうですが、消費者の方々が時間前に行列を作ることもあり、一時間程で農産物の多くが無くなってしまいう程活況を呈する時もあるそうです。

今後の課題として「青空市」のスペースが限られていること、新会員を増やすことが出来ないという事だそうです。春には苗物、鉢



物など数多くの物が「青空市」前の駐車場に並べて販売しなければならぬそうです。また、消費者とコミュニケーションをとれる様なテーブルやイスが置ける場所が欲しいとの事でありました。

尚、昨年の売上高は三千二百万円程だそうです。これからも生産者の顔が見える、安くて安心安全な食材を求める消費者に対し、本荘管内農家が生産した食材を直接

『農家の皆さんからの、記事・写真・ご意見・ご要望等を募集しています。』

お気軽に最寄りの農業委員または地元農業委員会事務所へお寄せ下さい。

販売し、農業への理解を深めるとともに、農家所得の向上を図ることを目的として、栽培技術講習会を開催し、各種の研修会を通して会員相互の絆を深めながら、楽しく頑張っていきたいとの会員の皆さんでした。これからも頑張れ「あちゃんパワー」



● 農業委員会 ●

本 庁 TEL.庶務班 24-6258
(本荘事務所) TEL.農政班 24-6259
TEL.農地班 24-6260

- 矢島事務所 TEL.55-4957
- 岩城事務所 TEL.73-2014
- 由利事務所 TEL.53-2114
- 大内事務所 TEL.65-2804
- 東由利事務所 TEL.69-2197
- 西目事務所 TEL.33-4614
- 鳥海事務所 TEL.57-2206

- 金子 徹
- 佐藤 俊和
- 岡田 實
- 今野 正樹
- 東海林正彦
- 渡辺 幹夫
- 高橋 相庭
- 安 賢一